

KITASATO UNIVERSITY

栃木県支部ニュース No.42

支部創設30周年記念

2024年8月1日発行

北里大学同窓会  
栃木県支部



北里大学同窓会栃木

栃木県支部ホームページQRコードです。  
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

**北里大学同窓会栃木県支部  
第八回定期総会・講演会・懇親会開催**

北里大学同窓会栃木県支部  
事務局 田村 明美

北里大学同窓会栃木県支部の皆様

6月22日の午後4時から宇都宮のニューイタヤホテルで北里大学同窓会栃木県支部の第八回定期総会総会を開催しました。大学同窓会より栃木県支部規定に則り、議長に福澤英子（1973PP）さんを指名しました。

福澤議長の下、最初に支部長から、会則では、投票総数の半数以上の賛成で議決され、今回は82通の委任状で既に全議題は承認されているとの説明後、15名で審議に入りました。全議題を一つずつ審議しました。

投票結果

	承認	否認	保留	無記入	総数
議題1	97	0	0	2	99
議題2	97	0	0	2	99
議題3	97	0	0	2	99
議題4	97	0	0	2	99
議題5	84	0	1	2	87
議題6	97	0	0	2	99

この結果、支部規約改正案、活動報告、決算、活動計画、予算案、次期役員等は提案通り承認されました。

総会終了後、支部講演会、懇親会を行いました。



**支部講演会を聴いて**

滝 龍雄

第八回定期総会の後に、三宅裕志教授（北里大学海洋生命科学部環境生物学講座海洋無脊椎動物学研究室）の「深海生物学への招待」と題した支部講演会が行われた。三宅教授はNHKの科学番組等にも出演されている深海生物の専門家で、元々はクラゲの研究者であったとの事。相模原キャンパスの海洋生命科学部にある小さな水族館にクラゲの水槽があり、それも管理しているとの事であった。三宅先生は非常に興味深い話をたくさんご披露してくれ、海無し県の栃木県に住むものとしては非常に興味深かった。

そもそも、深海とはどの位の深さから言うのかも知らなかったが、水深200m以上との事。大陸棚がそのくらいまでの深さになっているからとの事でした。それ以上深くなると太陽の光も届かず、高圧（10m深くなると1気圧増すので水深100mでは大気圧と合わせて11気圧になる）で光合成も行なわれないため、植物プランクトンが少ない貧栄養の海になるとの事でした。

魚なので、「目からうろこ」そのものですが、魚の腹部が銀色になっているのにはそれ相当の理由があるそうです。大きな魚が餌を探して下から見ると腹部が銀色だと見つかりに難しいのだそうです。そう言われれば、多くの魚の腹部は銀色だ！さらに深くなると光も届かず、栄養分も無くなり、そのような環境に生息する魚等は、目が退化し、奇妙な姿になるそうです。そもそも目が見える必要は余りないようで、触れたものは何でも口に入れるため、口は大きくなっているとか。

深海底にはぼつりと存在する熱水域（熱水噴出孔）周辺には、サンゴ礁の生物量にも匹敵する程の生物がひしめき合っており、そこにはエビの仲間が大量に繁



殖し、そのエビを食べる他の生物がいるとの事です。熱水噴出孔周辺は地球上の生命が誕生した場所とも考えられており、非常に興味深い話であった。

深海の生物の研究には、深海に潜って活動できる深海艇を使います。現在、日本では海洋研究開発機構(JAMSTEC)の保有する「しんかい 6500」が国内外の研究者の研究・開発に利用されているようで、三宅先生の研究グループも毎年研究企画書を提出して利用させてもらっているそうです。

「しんかい 6500」自体には目的地に航海するための装置は無いので、通常は支援母船「よこすか」に載せられており、「よこすか」には潜水艦の整備をする為の格納庫、着水揚納する為のクレーン、研究者が海底で採取したサンプルを研究する為の研究室(ラボ)等を備えており、「しんかい 6500」の基地であり、浮かぶ研究所でもあるそうです。

実際に深海に潜るには、「よこすか」で目的の海域に航海していき、鉄のウエイトを積んで深海に潜り、そこで潜水用の鉄製のバラストを捨てて調査を開始します。6500mの深海迄約2時間半かけて潜り、調査終了後2時間半かけて海面まで上昇するので、往復5時間かかれい、深海での調査は日中の3時間しかできないそうです。

三宅先生、貴重な話を有り難う御座いました。

## 北里大学同窓会栃木県支部 設立30周年記念 北里柴三郎記念館見学ツアー

栃木県支部支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の皆さん

栃木県支部が1994年に設立されて30年経ちました。支部会ニュースNo.41で支部創立30周年記念の企画を募集しました。その中で熊本県小国町の北里柴三郎記念館ツアー開催の提案がありました。支部の運営委員会で今年11月開催の可能性を検討していましたが、小国周辺は観光地として非常に有名になり、今からでは記念館近くの宿泊施設を予約出来ないことが分かり、又、飛行機の予約も困難なことが分かりました。

このようなことから、今年無理に開催するよりも、充分時間的に余裕をもってツアーを計画した方が良いという結論に達し、来年早々、新たに日程や旅程を検討し、記念館近くの宿泊施設を確保しようという事になりました。

定期総会後の懇親会で今年の11月に開催したいと発表し、既に計画に組み入れた方には申し訳ありませんが、ご理解の程、宜しくお願いします。

## Relay for Life 2024 JAPAN in Tochigi 栃木県支部として参加!!

栃木県支部 滝 龍雄

今年も、9月14日から15日、栃木県における第

12回のRelay for Life JAPAN 2024 in TOCHIGI が壬生町の総合公園陸上競技場で開催されます。北里大学は生命科学の総合大学として、ヒトや動物の疾病予防・健康維持に関連した教育・研究をしています。がんは動物・植物を問わず全ての生命あるものには免れることのできない宿命で、高齢化に伴い、がんはより身近になります。がんの患者さんに寄り添う崇高な目的を持ったリレー・フォー・ライフに、栃木県支部では今年も参加します。

Relay for Lifeの目玉企画は24時間ウォークですが、ここ数年の開催状況から鑑み、今年から栃木県支部としての参加の仕方を変えることにしました。

今年の支部の参加は、テントを例年通りに確保しますが、参加人数の減少等もあり、24時間フル参加ではなく、

支部としての参加は14日が正午から午後8時まで、  
15日は朝の8時から正午までで、深夜は無人です。

参加費等は今まで通り、支部で負担しますので、参加できます方は支部長までご一報ください。

## 新1000円札発行

皆様の中には既に入手している方もいると思いますが、北里大学の学祖北里柴三郎博士の肖像が使用された新1000円札が7月3日より発行されました。今回の新札は偽造防止に高精細すき入れや3Dホログラムなどの多くの新技術が導入されているようです。



滝 龍雄

1853年、肥後の国(現在の熊本県)小国郷北里村で生を受けた北里柴三郎博士は、30歳(1883年)で東京帝国大学医科大学(現在の東京大学医学部)を卒業し、内務省衛生局に勤務しました。その2年後の1885年、32歳の時にドイツ留学を命ぜられ、その一年後に、ベルリンのRobert Koch博士に師事し、本格的に細菌学の研究に従事しました。そこで破傷風菌の嫌氣的純培養に成功するなど、数々の研究業績を上げ1892年、6年間の留学を終えて帰国しました。帰国後は内務省からは研究のできる環境を与えられ

なかつたので、福沢諭吉のサポートを受けて日本初の私立伝染病研究所（後の国立伝染病研究所）を創立しました。

1914年には国立伝染病研究所の文部省移管を巡って所長を辞任し、私立北里研究所を設立し、明治から大正にかけて予防医学や感染症医学に関する多くの業績を残しましたが、研究だけではなく、社会的にも多大な貢献をしたものも少なくありません。

1901年（明治34年）日本連合医学会（現在の日本医学会）を設立。

1908年（明治41年）6月12日、恩師 Robert Koch 先生、夫人同伴で来日。73日間で伊勢神宮、関西、広島、瀬戸内海周遊をして8月24日離日。

1916年（大正5年）には大日本医師会（現在の日本医師会）を設立し、初代医師会長に就任しました。

1931年、78歳で逝去となっています。

博士の研究等には余り触れられていませんが、日本の風土病と呼ばれるツツガムシ病の研究の為に新潟県に滞在したという事は良く知られていますが（それが縁で、新潟に北里保健衛生専門学院＝現在の北里大学健康科学部が開設されたそうです）、栃木県と北里柴三郎博士の縁についての情報は余り知られていませんでした。

そんな中、元北里大学薬学部の教授で、北里柴三郎研究者でもあった中瀬 安清先生が北里研究所報（The Kitasato Summer 2005, No.47）に、「北里柴三郎博士 恩師コッホ夫妻を招く」と題し、1908年6月12日（土）の来日から8月24日（火）の間の旅行日程を詳しく紹介しています。その中には

6月27日（日）～30日（水）上野発の汽車で日光へ。

栃木県医師会と交流。金谷ホテルに4泊。

7月1日（木）ホテル玄関前で栃木県医師会有志と記念撮影。帰京。

とあり、日光の金谷ホテルに4泊していたことを記載しています。本当はもう少し長く滞在する予定だったところ、梅雨時の蒸し暑さにコッホ夫人が音を上げ、早々に鎌倉に移動したとの事でした。確かに6月27日から7月1日という、梅雨の真っ最中で、日光といえども、梅雨を避けるわけにもいけなく、また、寒かったのではないかと想像しますが、他に、鎌倉・由比ヶ浜の海浜院ホテルの支配人がコッホの知人で有ったことも少なからず影響しているのではと思います。因みに、海浜院ホテルでメイドとして働いていた村木きよさんは、人柄や仕事振りがコッホに大層気に入られ、コッホ帰国の際は、コッホの心臓病の看護の為に、一緒にドイツに渡り、2年後、コッホが亡くなるまで献身的に働いたと言われています。

コッホが来日し、日光で静養した時には北里柴三郎博士も同道したことが、日光金谷ホテルの前で撮影した記念写真に残っています。コッホ夫妻が来日した時には、約2ヶ月半で全国各地を回っていますが、西は広島県の厳島神社で、東（北？）は日光迄しか足は延ばさなかつた様ですね。このとき以外で北里柴三郎博

士が日光に来たとの記録は今の所、見当たりません。

## 学校法人北里研究所の新理事長 および北里大学新学長就任



浅利 靖新理事長



砂塚敏明新学長

学校法人北里研究所は小林弘祐前理事長の任期満了にともない、浅利 靖先生が、また、北里大学は、島袋香子前学長の任期満了にともない、砂塚敏明先生が学長に就任しました。いずれも任期は、2024年7月1日から2028年6月30日までの4年間です。新理事長と新学長の経歴です。新理事長、新学長の同級生が栃木県支部にもいます。両先生の経歴です。新理事長：浅利 靖（あさり やすし）

1960年11月生まれ（63歳）。1986年北里大学医学部卒業。医学博士。1991年北里大学医学部助手、1996年専任講師、2004年弘前大学医学部教授、2014年北里大学医学部教授、2017年北里大学病院副院長、2019年医学部長（理事）、2020年副学長を経て、2024年7月より現職。

新学長：砂塚 敏明（すなづか としあき）

1959年9月生まれ（64歳）。1982年北里大学薬学部卒業、1988年同大学院薬学研究科博士課程修了。薬学博士。1988年ペンシルバニア大学化学科博士研究員、1990年社団法人北里研究所主任研究員、1994年北里大学薬学部専任講師、2002年北里生命科学研究所・大学院感染制御科学府准教授、2005年教授、2020年大村智記念研究所所長・大学院感染制御科学府学府長（理事）を経て、2024年7月より現職。（尚、両氏の写真は大学HPより転載）

## 北里柴三郎記念博物館 北里柴三郎博士特別展第三弾

北里柴三郎記念博物館では、「北里研究所創立110周年・北里大学創立60周年記念 北里柴三郎博士特別展第三弾」として

『北里柴三郎が語る「お札の話」—世界を熟知した先人達の功績—』

7月3日（水）より10月31日（木）まで展示室1で開催中です。詳細は記念博物館HPをご覧ください。

## 北里大学同窓会栃木県支部 30 周年記念

荒木俊光 (1970HH)

### 北里大学の思い出 (創設当時の大学の状況)

北里大学は昭和 37 年 (1962 年) 港区芝白金三光町にあります北里研究所の敷地内に設立された。衛生学部 (衛生技術科、化学科) で始まり、1964 年薬学部薬学科、1965 年薬学部製薬学科、1966 年畜産学部 (獣医、畜産)、1968 年相模原キャンパスが開設され産業衛生学部が、1970 年医学部、1971 年北里大学病院、1972 年水産学部、1986 年看護学部および北里大学東病院開設と目覚ましい発展を遂げた。

私は昭和 41 年 (1966 年) 4 月に北里大学衛生技術学部衛生技術学科の 5 回生として入学。校舎は芝白金三光町の北里研究所内にあり、1 階に大学事務局のある地下 1 階地上 5 階建ての C 号館でした。その正面には新設の薬学部の地下 1 階地上 8 階建ての立派な E 号館がそびえ建っていた。



北里研究所本部 (現在 明治村) 北里大学 E 号館、C 号館  
その頃はまだ、相模原キャンパスはなく、大学 3 年の時に青森十和田の獣医学部や芝白金の衛生学部・薬学部など全ての学部の教養課程が相模原キャンパスに移った。この頃から、クラブ活動などで相模原校舎に向いたが、昭和 45 年 (1970 年) 3 月の卒業まで芝白金で過ごした。東北弁なまりのドイツ語を安斎博教授 (公衆衛生学) に、ウイルス学を長木大三教授 (1970 年に北里大学学長になられる) にご教授いただいたことを思い出しました。大学の 2 年生頃からクラブ活動の他に、入学して仲良くなった同級生、クラブの先輩などと共に、授業外学習として公衆衛生学教室 (キノコの抗菌作用)、寄生虫学教室 (蚊、ハエの子ウジやダニの分別)、薬理学教室などに通い、3 年になってからは北里研究所の放線菌を中心とした微生物部門に足を運んだ。4 年になってからは学外研修の目的で、夏休みなどを利用して北里研究所の近くにありますが東京大学医科学研究所 (旧伝染病研究所) の微生物学研究室 (吉川昌之助教授)、医動物学研究室 (中野康平教授、後に自治医科大学教授になられる) でトキソプラズマなどの原虫のマウス・砂ネズミ・モルモットなどを使った動物感染実験のお手伝いなどをさせてもらった。

大学の実習ではガス壊疽菌の感染実験 (ラット)、妊娠診断のマイニニの雄ガマ反応 (雄のヒキガエル) やフリードマン反応 (雌の家兎)、眼静脈採血 (マウス、ラット)、心臓採血 (マウス、ラット、砂ネズミ、モルモット、家兎) など多くの実験動物を

扱うことができ、実習にも熱が入っていた事を思い出した。これらの経験が卒業してからの就職において役に立って立つことになった。

### 済生会宇都宮病院に勤めた思い出

吉川教授との出会いが、私が昭和 45 年 (1970 年) 済生会宇都宮病院 (中央本町時代) に臨床検査技師として勤める切っ掛けとなりました。それは吉川教授が東京大学医学部の同級生であった栃木県立衛生研究所所長の木村貞夫先生 (後に帝京大学医学部教授になられる) に私を紹介してくれた事に始まりました。そして木村先生が私を済生会宇都宮病院長高橋昇先生 (創設者で初代院長) に紹介して下さり、採用され細菌検査・免疫検査を担当する事になったのです。ここで大学時代に経験した動物実験や採血が役立つことになる。いくつかあげると、緑膿菌の血清型別用の因子血清免疫 (フリードマン反応の家兎を利用、心臓採血、全採血、免疫血清からの吸収操作による特異抗体検出)、フリードマン反応を利用した胞状奇胎術後の低濃度 HCG 検出 (浸透圧を利用した尿の濃縮、家兎の腹部切開による卵巣観察)、家兎抗体を利用したゲル内沈降反応で検出した CRP や免疫グロブリンの特異抗体作成 (フリードマン反応の家兎を利用、心臓採血、全採血) などです。この様にこのころの検査室では検査に家兎を使うなど、動物を飼育していたので、実験・研究に利用ができた。現在の検査室では機械化が進み、測定法も微量化、高感度化、高速化、システム化と発展し、動物を飼育し検査あるいは研究に利用することなどほとんど行われなくなりました。

### 北里大学同窓会栃木県支部の思い出

昭和 49 年 (1974 年) に自治医科大学、獨協医科大学が栃木県内に開設され、北里大学卒業生が勤められる環境になってきた。それまでは、北里大学卒業生は数えられるほどで、同窓会を組織するにはほど遠かった。

平成 6 年 (1994 年) 4 月北里大学同窓会栃木県支部設立：時が足って、衛生学部・薬学部・獣医畜産学部・水産学部・医学部等の栃木県内に戻られる卒業生や勤められる卒業生の数も増え、各方面で活躍されるようになった。



医療衛生学部同窓会各支部役員（山梨県支部長の金丸さん提供）

私事ではありますが、平成 2～3 年頃北里大学医療衛生学部同窓会の理事を同理事で同級生の岐阜県衛生研究所勤務の川本尋義さん（岐阜県支部長）の誘いで引き受けました。この経験で各地方に同窓会支部会を結成したり、結成しようという機運が芽生えていることを知り、栃木県に支部結成を意識するようになりました。上の写真は全国北里大学同窓会支部懇談会に参加した時の記念写真です。

平成 6 年（1994 年）に獨協医科大学から宇都宮東病院に転職されて来た同級生の鈴木一夫さんや県・自治医科大学・独協医科大学・済生会宇都宮病院などに勤務する卒業生で北里大学同窓会栃木県支部を結成いたしました。本部同窓会に報告し、県内に勤めている卒業生の情報を得、住所タックシールをいただき、設立総会を開催することを通知いたしました。本部同窓会から理事を、大学から広報担当教授を招き、第一回総会の開催の運びとなりました。平成 10 年度（1998 年）の支部総会には大学本部同窓会より島田肇理事に参加をいただき、また慶応大学医学部・済生会宇都宮病院病理医向井万起男先生に大変忙しい中特別講演をいただきました。向井先生は女性宇宙飛行士の向井千秋さん（旧姓内藤千秋、慶応大学医学部勤務、済生会宇都宮病院心臓血管外科、慶応大学病院で石原裕次郎の手術に立ち会ったことでも知られています。慶応義塾大学出身女性心臓血管外科医第一号でもあります。）の旦那さんで、病理はもちろん宇宙ステーションのことについても大変詳しい方です。ご講演いただいた理由は、向井万起男先生が済生会宇都宮病院非常勤病理医で病理検査室に週 1 回お会いしていたこと、私が中央検査部技師長になっていたこと、旧済生会宇都宮病院心臓血管外科医で向井先生と結婚する前の内藤千秋先生を存じていたことなどがあげられます。



向井万起男先生と共に



島田肇本部同窓会理事と共に



向井先生と島田理事、参加会員



向井先生の講演を聞く参加会員

この支部総会の開催をピークに会員の出席率が下がりがりだし、開催が危ぶまれる年もでてまいりました。何年か過ぎ、自治医科大学の近郊にお住まいで、北里大学にご勤務だった滝 龍雄さんに支部長をお願いし、再起し現在に至っています。

## 北里精神とは、

### 1. 「開拓の精神」

熊本の医学校に学び東京帝国大学医学部を卒業した北里博士は、ドイツに留学し、微生物学の第一人者であったローベルト・コッホ博士の門下生となり、破傷風菌の純培養の成功、破傷風菌の毒素と免疫抗体の発見、ペスト菌の発見などの独創的な発想から、医学界における世界的な成果を導き出されました。太鼓のバチの形をした破傷風菌は、大学の校章として用いられています。

### 2. 「報恩の精神」

北里博士の恩師であるローベルト・コッホ博士、福沢諭吉翁（慶應義塾の創立者）、明治天皇をはじめ、恩義を受けた方々に対する礼を尽くされた北里博士の人柄、心構えから導き出されました。コッホ博士の遺髪は今も白金のコッホ・北里神社に納められています。

### 3. 「叡智と実践 Sophia kai Ergon」

北里博士の「学者の知識はどのように革新的で高尚なものであっても、それが一般社会に還元されなければ何の役にも立たない」という持論から導き出されました。ギリシャ語表記の「Sophia kai Ergon」は私が北里大学に入学した時、C 号館の入り口の壁にブロンズ板に刻み掲げられていました。今後の大学生活に心を弾ませた思い出があります。

### 4. 「不撓不屈の精神」

波瀾万丈の生涯を送られた北里博士の悪戦苦闘、それにめげることのない足跡から導き出されました。北里博士は、学問の独立と自由を守るため、たとえ恩師といえども間違っていれば、真摯な気持ちをもってこれは正しくないと言指し、学問の真のあり方を問い続けました。

北里博士の怒涛のような人生を突き動かした力に、突き動かされます。



北里大学校章シンボルマーク  
破傷風菌の芽胞のバチ姿を取り入れた



北里大学衛生学部同窓会の小型ペンダント  
一時卒業生への卒業記念品としての



北里大学シンボルマーク  
赤色に A は医療衛生学部シンボルマーク



北里大学同窓会基本ロゴ

## ～久しぶりの同窓生集結～

めぐみ乳腺クリニック

院長 竹原めぐみ（医学部 21 期）

北里大学同窓会栃木県支部の皆様、医学部 21 期の竹原です。現在、下野市にある自治医大駅の近くで乳腺クリニックを開業しています。この度、医学部同窓会栃木支部会を開催しましたので、御報告します。



2024 年 1 月 13 日午後 7 時より、栃木県宇都宮市にある宇都宮東武ホテルグランデのカフェレストラン「オアシス」にて栃木支部会を開催いたしました。

多くの他の支部会もそうだったと思いますが、コロナ禍のため開催をしばらく見送っていたため、栃木県支部会は 2020 年 2 月 28 日以来 4 年ぶりの開催となりました。

参加者は 25 名で、医学部同窓会本部からは高平尚伸副会長（14 期）、廣瀬隆一副会長（4 期）、坂本則敏常任理事（3 期）のお三方にご出席をいただきました。

栃木県内の同窓生は 1 期の安田是和先生から 41 期の福田真也先生まで幅広い世代、そして開業医から主要拠点病院等にご勤務の先生まで幅広い層の皆様が集まりました。参加者の中には「北里カップル（ご夫婦での参加）」も三組いらっしゃいましたし、「子どもが同窓生になりました」からの親子もいらっしゃいました。

福島一哉支部長（10 期）より開会のご挨拶をいただき、まずは新年早々に発生した能登半島地震に対し、犠牲者への黙祷を捧げました。

続いて、藤田朋恵副支部長（16 期）より会員の入退会報告について、阿久津行永監事（2 期）より会計・監査報告について、そして石原雅行事務局長（15 期）より来年度の総会をどの時期にするかというお話がありました。今回はコロナ禍後初の開催で、時期の調整などもあり新年会の時期になってしまいましたが、コロナ禍前に例年行われていた 6 月頃の時期にしようか、というようなお話になりました。

その後、高平副会長より、北里大学相模原キャンパスおよび北里大学病院の現在の状況についてご説明いただきました。懐かしいキャンパス・大学病院から工事中の経過と状況、そして完成予想についてわかりやすく楽しいスライド資料を披露いただきました。

なかなか相模原まで行くことが出来ないこともあって、興味津々で大学に在籍していた頃のことなどにも思いを馳せながら大変楽しく聞かせていただきました。

懇親会では、東博先生（6 期）より乾杯のご発声をいただいて、食事をしながらの歓談を楽しみました。あちらこちらへ移動してお話をしたりご挨拶をしたり、あっという間に終了時間となりました。

私自身かなり久しぶりの参加だったのですが、活躍されている同窓の先生方が栃木県内にこんなに大勢いらっしゃることを嬉しく、そして大変心強く感じました。

今後も交流を深めていく機会の場合として、世代間や横のつながりを強くしていく意味でも、是非とも継続していくべきであると感じさせられました。県内には今回諸事情でご参加いただけなかった先生たちを含め、まだまだ多くの同窓生がいらっしゃいますので、今後はより多数の皆様のご参加を期待したいと思います。



（下野市；めぐみ乳腺クリニックの外観です。）

編集後記 6 月に第八回の定期総会を開催し、その後三宅先生の講演会、懇親会とありました。今総会では大学同窓会より小林隆幸支部担当理事の臨席の元、提案された議題を承認してもらった。三宅先生には懇親会以降、何と二次会、三次会をお付き合い頂き、有り難う御座いました。

所で、北里研究所創立 120 年、北里大学創立 60 年と節目をお祝いするように、北里柴三郎博士の肖像画書かれた新 1000 円札が 7 月に発行されました。弟子の野口英世博士との交代である。更に、今年は同窓会栃木県支部も設立 30 年です。30 年前の栃木県支部結成時の支部長・荒木俊光さんに、30 周年記念の寄稿をお願いした。荒木さんは衛生技術学科の 5 回生で、当時は済生会宇都宮病院医療技術部の技師長であった。荒木さんは、北里大学創設期の様子も交えて、栃木県支部設立時のエピソードを紹介し、最後に 5 つの北里精神にも触れてくれた。これは今でも新入生に伝えられている北里大学の精神的支柱ともいえるべきものです。今でも脈々と受け継がれています。